

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科衛生統計学	歯科衛生士学科／3年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		井口 和美
授 業 の 概 要			
統計学を学び、情報の性質やデーター、EBM、国家保健統計を理解する。 保健情報から読み取る疫学分析、疫学研究の種類について理解する。 歯科疾患の指数の理解と算出方法の理解 口腔清掃状態についての指数と算出方法の理解			
授業終了時の到達目標			
データーと情報の性質の違い、EBMを説明できる。 疫学の定義、目的を説明できる。 スクリーニング検査、敏感度および特異度を説明できる。 う蝕指数・歯周疾患指数・口腔清掃状態の指数を算出できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1～2	保健情報と保健統計学	保健情報とは 保健統計とは 保健情報の種類 国家統計調査	
3	保健情報と疫学	疫学とは 健康障害の発生要因 疫学の方法論	
4	歯科疾患の指数	数量化と指数 う蝕の指数 歯周疾患指数	
5	口腔清掃状態の指数 不正咬合と歯列不正の指数 歯のフッ素証指数	OHI OHI-S P?I PHP PCR 顎顔面異常の分類コード Angle 分類法 Deanの歯のフッ素証症分類	
6	保健情報	調査 質問紙作成法 母集団と標本抽出	
7	保健統計の方法	データの特徴 記述統計 代表値 散布度 相関 推定と信頼区間	
8	確認試験		
教科書・教材		評価基準	評価率
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 医歯薬出版株式会社		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
衛生行政・社会福祉		歯科衛生士学科／3年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		井口 和美
授 業 の 概 要				
衛生行政の仕組みや保健医療、福祉関係法規を理解する。 福祉関係の法規について理解し、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対策を理解する。				
授業終了時の到達目標				
衛生行政の体制および衛生関係法規について理解する。 社会保障の成り立ちを学び、社会保険と社会福祉の詳細を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	医療法		わが国の医療制度	
2	医療法		歯科医師法 歯科衛生士法	
3	医療関係職種		看護師・保健師・助産師・臨床検査技師 診療放射線技師・言語聴覚士・薬剤師	
4	関係法規		地域に関する法律	
5	関係法規		歯科口腔保健法・薬事に関連する法規・衛生に関する法規	
6	社会保障		医療保険・介護保険・年金保険・社会福祉	
7	医療の動向		国民の健康状態 国民医療費	
8	まとめ、テスト		まとめ 前期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢者・障がい者歯科学Ⅰ		歯科衛生士学科／3年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		勇 幸代
授 業 の 概 要				
スペシャルニーズを理解し、対応するときに基本となる考え方、知識と技術について学ぶ。 スペシャルニーズとする患者さんに対する口腔衛生管理および口腔機能向上訓練における歯科衛生士の役割について学習する。				
授業終了時の到達目標				
1. 障がい者・高齢者の概念が理解できる。 2. 障がい者・要介護高齢者の全身的特徴と歯科的特徴が理解できる。 3. 障がい者・高齢者における対応や口腔衛生管理の支援ができる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場での介護支援専門員、訪問歯科での経験を活かし、障がい者や高齢者歯科学の講義を行う		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて指導する				
回	テ ー マ		内 容	
1	障害の概念		1. 歯科医療におけるスペシャルニーズ 2. 障害の分類 3. 生活機能に特別な支援を必要とする人のQOL 4. ノーマライゼーションとバリアフリー 5. スペシャルニーズの発生とその受容 6. 障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 神経発達症候群	
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 運動障害（神経・筋系疾患）	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患		1. 感覚障害 2. 音声言語障害 3. 精神および行動の障害 4. その他 障害のある人への虐待	
5	障害者の歯科医療と行動調整		1. コミュニケーションの方法 2. 行動療法（行動変容法） 3. 体動のコントロール 4. 薬物的行動調整法	
6	健康支援と口腔衛生管理 リスク評価と安全管理 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割		1. 障害者に対する口腔健康管理 2. 医療安全管理体制 3. 障害者歯科と地域医療連携	
7	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割		1. 摂食嚥下障害と口腔管理 2. 摂食嚥下障害と栄養管理 3. 摂食嚥下障害の評価法	
8	障害者歯科学確認テスト		障害者歯科学確認テスト	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学【医歯薬出版株式会社】 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学【医歯薬出版株式会社】		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
高齢者・障がい者歯科学Ⅱ		歯科衛生士学科／3年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		勇 幸代
授 業 の 概 要				
スペシャルニーズを理解し、対応するときに基本となる考え方、知識と技術について学ぶ。 スペシャルニーズとする患者さんに対する口腔衛生管理および口腔機能向上訓練における歯科衛生士の役割について学習する。				
授業終了時の到達目標				
1. 障がい者・高齢者の概念が理解できる。 2. 障がい者・要介護高齢者の全身的特徴と歯科的特徴が理解できる。 3. 障がい者・高齢者における対応や口腔衛生管理の支援ができる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場での介護支援専門員、訪問歯科での経験を活かし、障がい者や高齢者歯科学の講義を行う		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて指導する				
回	テ ー マ		内 容	
1	高齢者を取りまく社会と環境		1. 高齢社会と健康 2. 高齢者の健康に関わる法制度 3. 地域包括ケアシステム 4. 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴	
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患		1. 加齢に伴う身体的機能の変化 2. 高齢者の精神・心理的变化 3. 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患	
3	高齢者の状態の把握		1. 高齢者の生活機能の評価 2. 高齢者歯科と臨床検査	
4	高齢者の栄養状態 高齢者の服用状態 口腔健康管理		1. 高齢者の栄養状態 2. 高齢者の薬剤服用 3. 高齢者の口腔健康管理のための評価 4. 高齢者への口腔健康管理	
5～6	摂食嚥下リハビリテーション		1. 摂食嚥下の評価 2. 嚥下訓練と対応 3. 在宅における摂食嚥下リハビリテーション 4. 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	
7	高齢者に関わる医療と介護		1. 在宅医療の概要 2. 訪問看護と歯科の役割 3. 訪問介護と歯科の役割 4. 訪問診療における歯科医療	
8	高齢者歯科総まとめ		高齢者歯科総まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学【医歯薬出版株式会社】 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学【医歯薬出版株式会社】			期末試験	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅴ		歯科衛生士学科／3年	2026／前期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）		必須		井口 和美
授 業 の 概 要				
歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識と技術を習得する。 歯周疾患予防および、治療の流れを理解し、検査・SRP・メンテナンス・SPTの総合演習を行う。 歯科衛生過程を理解し、情報収集 アセスメントなどを行い指導計画の立案を行う。				
授業終了時の到達目標				
1. これまで学習した小窩裂溝填塞法について理解し、総合実習が行える。 2. う蝕活動性試験の種類や方法、それぞれの目的について理解して実施できる。 3. キュレットスケーラーの操作方法、使用目的を理解し総合実習が行える。 4. 歯科衛生士過程の学習をもとに、患者情報・検査データを読み取り歯科衛生診断が行える。 5. 歯周疾患治療における、メンテナンス・SPTの違いを理解して実践できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科医院・大学病院での勤務（10年）の経験を、教育・学生指導に活かす。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	小窩裂溝填塞目的・手順について復習		1) 小窩裂溝填塞目的 2) 施術の流れ・手順	
2	小窩裂溝填塞Ⅲ（相互実習）		1) 小窩裂溝填塞ⅠⅡ 復習 2) 小窩裂溝填塞 相互実習 ラバーダム防湿 光重合型小窩裂溝填塞	
3～4	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験		う蝕活動性試験の意義・条件・目的 評価方法 判定と分析	
5	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験		う蝕活動性試験の意義・条件・目的 評価方法 判定と分析	
6～7	う蝕予防処置法 う蝕活動性試験		1) RDテスト 2) CAT 2 1	
8～9	う蝕予防計画		1) リスクに合わせた計画 2) グループワーク	
10	グレーシー総合実習		・ 33番歯～43番歯（唇側・舌側） 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧 ・ 44番歯～47番歯（頬側・舌側） 1) ポジショニング 2) 操作角度・操作幅・側方圧	
11～13	総合演習		1) グレーシータイプ実習	
14～16	総合演習		2) 超音波スケーラー	
17～19	総合演習		3) PMTC	
20～22	歯周病 事例 グループワーク		1) 検査結果や口腔内所見をもとにアセスメントを行う	

回	テ ー マ	内 容		
23	確認テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議 会 監修		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅵ		歯科衛生士学科／3年	2026／後期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）		必須		井口 和美
授 業 の 概 要				
3年間のまとめ 国家試験過去問（歯周疾患、歯周組織検査、付着物・沈着物、スケーラー、歯面清掃器具） 歯周病事例の検討 グループワーク				
授業終了時の到達目標				
歯周病事例についてのグループワークを行い、患者情報・検査データを読み取り歯科衛生診断が行える。 歯科予防処置論の国家試験問題について学習し、過去問題を解く力を養う。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科医院・病院での10年間の歯科衛生士業務経験を、教育・学生指導に活かす。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	歯周病 事例 グループワーク	1) 症例の歯科衛生診断		
3～5	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周組織 2) 歯肉炎・歯周炎		
6～7	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着物・沈着物		
8～9	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 手用スケーラー ポジショニング		
10～11	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 超音波スケーラー 2) エアスケーラー		
12～13	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯周基本検査 2) アタッチメントレベル		
14～15	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 付着歯肉幅		
16～17	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯肉縁上歯石 2) 歯肉縁下歯石		
18～19	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) プラーク形成過程 2) グラム陰性菌 陽性菌		
20	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) シャーピング		
21	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 歯面研磨		
22	歯科予防処置論（国試問題）	過去問題プリント 1) 全身疾患と歯周病リスク		
23	まとめ 確認試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修		期末試験	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅴ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）	必須		井口 和美
授 業 の 概 要			
歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 配慮を要する者への歯科衛生介入 口腔機能管理に関わる指導 非感染性疾患（NCDs）の症例の理解 禁煙指導・支援の知識 ストレスマネジメントの知識 大規模災害被災者への対応			
授業終了時の到達目標			
対象者の認知及び精神状態、生活に関する情報を把握できる 口腔機能管理に関する指導ができる 非感染性疾患（NCDs）の症例に合わせた歯科保健指導ができる 禁煙指導・支援ができる ストレスマネジメントの指導ができる 大規模災害被災者の特徴を説明できる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	歯科医院・病院での歯科衛生士業務経験（10年）を、教育・学生指導に活かす。		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	1. 患者からの情報収集 主観的情報把握 医療面接	
2～3	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	2. 全身の健康状態の把握 器質的・機能的問題の把握 3. 認知機能の把握	
4～6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	4. 生活環境と生活背景の把握 社会構造の変化への対応 虐待への対応 5. 生活環境の把握 生活習慣病のリスク メタボリックシンドローム基準	
7～8	歯科衛生過程の進め方① グループワーク	グループワーク 歯科衛生アセスメント 1) 情報収集 2) 情報の整理・分類 3) 情報の解釈・分析	
9	歯科衛生過程の進め方① グループワーク	発表	
10～11	歯科衛生過程の進め方② グループワーク	グループワーク 歯科衛生計画立案 1) 目標の設定 2) 計画の立案	
12	歯科衛生過程の進め方② グループワーク	発表	
13～14	口腔機能管理に関わる指導	1. 口腔機能の発達に関連する指導 2. 口腔機能の低下に関連する指導	

回	テ ー マ	内 容		
15～ 16	非感染性疾患（NCDs）の症例の理解	1. 非感染性疾患（NCDs） 2. 口腔の健康状態と全身的な健康状態の関連		
17～ 18	禁煙指導・支援の知識	1. 禁煙者に対する指導 2. 日本人の喫煙状況 3. 歯周病と喫煙		
19	禁煙指導・支援の知識	1. 禁煙支援の取り組み 2. 禁煙ステージのアセスメントと禁煙支援		
20	ストレスマネジメント	1. ストレッサー 2. 認知機能評価、対応能力 3. ストレス反応に対する対処		
21～ 22	大規模災害被災者への対応	1. 災害と非難施設 2. 災害時の歯科保健医療 3. 歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動		
23	確認テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅵ		歯科衛生士学科／3年	2026／後期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）		必須		井口 和美
授 業 の 概 要				
3年間のまとめ 国家試験過去問（ブラッシング法 歯ブラシの規格、歯磨剤、補助用具、洗口液、洗口剤、義歯洗浄、う蝕と糖質、代用甘味料） 口腔衛生管理事例の検討 グループワーク				
授業終了時の到達目標				
国家試験過去問題（歯科保健指導論） 対策を行い国家試験問題を解く力を養う。 口腔衛生管理事例についてのグループワークを行い、患者情報・検査データを読み取り歯科衛生診断が行える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科医院・病院での10年間の歯科衛生士業務経験を、教育・学生指導に活かす。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	歯科衛生過程の進め方		1. 歯科衛生士過程の概要 2. 歯科衛生過程の各構成要素	
3～5	歯科衛生過程の進め方 グループワーク		グループワーク 歯科衛生アセスメント 1) 情報収集 2) 情報の整理・分類 3) 情報の解釈・分析	
6～7	歯科保健指導論（国試問題）		ブラッシングの種類と方法	
8～9	歯科保健指導論（国試問題）		歯ブラシの規格・補助用具	
10～12	歯科保健指導論（国試問題）		義歯洗浄、洗口液、洗口剤、音波ブラシ、電動歯ブラシ	
13～14	歯科保健指導論（国試問題）		う蝕と糖質、代用甘味料	
15～16	歯科保健指導論（国試問題）		正常な組織、病的組織について	
17～18	歯科保健指導論（国試問題）		口臭症の分類、官能検査判定基準	
19～22	歯科保健指導論（国試問題）		分析データ（オレリーPCR、OHI-S、PHP、PMA、PI、GB、CPI）	
23	確認試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版 一般財団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修		期末試験	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅴ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1. 50単位（45時間）	必須		四宮 直子
授 業 の 概 要			
歯科臨床と診療補助（矯正歯科治療時の診療補助、妊産婦の診療補助、高齢者の診療補助、障害児・者の診療補助） 歯科診療における基礎知識（歯科領域に必要な臨床検査、画像検査）について 歯科訪問診療における対応 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者について（主な全身疾患とその対応、周術期における歯科診療の補助） 口腔機能管理について 国家試験対策			
授業終了時の到達目標			
矯正歯科治療の特徴を説明できる 矯正歯科治療の手順に沿った器材を準備することができる。 妊産婦の歯科診療補助の特徴を説明できる。 高齢者の歯科診療補助の特徴を説明できる。 障害者の歯科診療補助の特徴を説明できる。 臨床検査の目的と各種検査法について説明できる。 画像検査法とその補助について説明できる。 口腔内写真の撮影と管理を実施できる。 歯科訪問診療時に必要な機材・薬剤と治療の流れを説明できる。 歯科訪問診療時の適切な患者対応を説明できる。 歯科訪問診療における感染予防対策を説明できる。 歯科訪問診療における口腔健康管理を説明できる。 主な全身疾患の概要や口腔所見、診療での注意点や対応を説明できる。 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 手術における術前、術中、術後の歯科衛生士の対応を説明できる。 口腔機能の種類とその評価方法を説明できる。 摂食嚥下リハビリテーションとのつながりを理解できる。 ライフステージに応じた口腔機能管理が理解できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。		
時間外に必要な学修			
本授業は国家試験出題基準に準拠しているため、毎回の講義内容が次回の理解に直結します。 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。 前回の授業で使用したテキストやプリントをを見返し、不明点を明確にした状態で次回の授業に臨むこと。			
回	テ ー マ	内 容	
1～3	矯正治療時の診療補助	1. 矯正治療と診療補助の特徴 1) 矯正治療に関する患者指導 2. 矯正治療の例と診療補助の流れ 1) 矯正装置の装着 2) 矯正装置の撤去	
4	妊産婦の診療補助	1. 妊産婦の診療補助の特徴 2. 妊産婦の歯科治療の例と診療補助の流れ	
5	高齢者の診療補助	1. 高齢者の歯科治療の特徴 2. 根面う蝕の治療	

回	テ ー マ	内 容
6	障害児・者の診療補助	1. 障害児・者の診療補助の特徴 2. 障害児・者の歯科治療の例
7～ 9	歯科領域に必要な臨床検査	1. 臨床検査の補助の目的、役割 2. 検査の準備と患者への説明 3. 検査の種類 1) 生体検査 2) 検体検査 3) 口腔領域の検査
10～ 12	画像検査	1. エックス線写真撮影 1) 口内法エックス線撮影 2) パノラマエックス線撮影 3) 頭部エックス線規格撮影 4) 歯科用コーンビームCT (CBCT) 撮影 2. 口腔内写真撮影 3. 画像の管理
13	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	代謝・内分泌疾患 1) 糖尿病 2) 骨粗鬆症 3) 甲状腺疾患
14	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	消化器疾患 1) 胃・食道逆流症 (GERD) 2) 胃炎と胃がん 3) 胃潰瘍・十二指腸潰瘍 4) 肝炎・肝硬変
15	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	循環器疾患 1) 心疾患・不整脈 2) 高血圧・低血圧 血液疾患 1) 貧血 2) 白血病 3) 血友病
16	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	呼吸器疾患 1) 肺炎・誤嚥性肺炎・呼吸器感染症 2) 気管支喘息 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 4) 肺結核 5) 睡眠時無呼吸症候群 (SAS)
17	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	腎・泌尿器疾患 1) 腎疾患 2) 前立腺疾患
18	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	免疫・膠原病 1) アレルギー 2) 膠原病 (シェーグレン症候群を除く) 3) シェーグレン症候群 4) アトピー性皮膚炎 感染症 1) ウイルス性肝炎 (急性、慢性の違い) 2) カンジダ症 3) AIDS

回	テ ー マ	内 容		
19	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	神経系疾患 1) 脳血管疾患 2) てんかん 3) 認知症 4) 神経難病		
20	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	精神疾患 1) 心身症・神経症 2) うつ病 3) 統合失調症 4) 発達障害		
21	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	がん 1) がん 2) 口腔がん		
22	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点 歯周病と全身の関係	産科・婦人科疾患 1) 妊娠による変化 2) 更年期障害 歯周病が及ぼす全身への悪影響		
23	矯正治療時の診療補助、妊産婦の診療補助、高齢者の診療補助、障害児・者の診療補助 臨床検査・画像検査 主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	まとめ 確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 臨床検査（医歯薬出版）		実習・実技評価 期末試験	10.0% 90.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅵ		歯科衛生士学科／3年	2026／後期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1. 50単位（45時間）		必須		四宮 直子
授 業 の 概 要				
歯科訪問診療における対応 歯科衛生士がかかわる医科疾患患者について（周術期における歯科診療の補助） 口腔機能管理について 国家試験対策				
授業終了時の到達目標				
周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる。 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 歯科訪問診療に必要な器材・薬剤と治療の流れを説明できる。 歯科訪問診療時の適切な患者対応を説明できる。 訪問診療における感染予防対策を説明できる。 訪問診療における口腔健康管理を説明できる。 口腔機能の種類とその評価方法を説明できる。 ライフステージに応じた口腔機能管理が理解できる。 国家試験の出題基準に基づいた頻出用語の意味を理解し自分の言葉で解説できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における患者との関わりやチーム医療の場面を教材として、社会のニーズに応える意識づけと歯科診療の補助の知識や技能を指導する。		
時間外に必要な学修				
本授業は国家試験出題基準に準拠しているため、毎回の講義内容が次回の理解に直結します。 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。 前回の授業で使用したテキストやプリントをを見返し、不明点を明確にした状態で次回の授業に臨むこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	周術期における口腔機能管理		周術期口腔機能管理の概要 1) 対象となる患者 2) 周術期口腔機能管理の流れ 3) 周術期における医療連携 病態の把握 1) 化学療法・放射線治療 2) 全身麻酔下で行う悪性腫瘍患者における外科療法治療時の対応 1) 周術期の歯科治療への対応 2) 専門的口腔衛生処置の実施	
3～4	歯科訪問診療補助		歯科訪問の診療補助の概要 1) 歯科訪問診療の概要 2) 歯科訪問診療の対象者 3) 歯科訪問診療の内容 歯科訪問診療の流れ 1) 歯科訪問診療の基本的な流れ 2) ポータブルの診療セット 3) 診療に必要な器材 4) 歯科訪問診療における感染予防対策 5) 訪問先とのコミュニケーション	

回	テ ー マ	内 容		
5～ 6	口腔機能管理	①口腔健康管理の意義と目的 ②口腔機能の種類 ③成長発育と口腔機能 ④口腔機能の評価 ⑤摂食嚥下障害と対応 ⑥ライフステージに対応した指導 ⑦配慮を要する者への指導		
7～ 9	国家試験対策	歯科診療で扱う歯科材料		
10～ 11	国家試験対策	医療安全と感染予防		
12～ 13	国家試験対策	歯科診療補助の概念 歯科診療における基礎知識		
14～ 16	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（保存治療時）		
17	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（補綴治療時）		
18	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（口腔外科治療時）		
19～ 20	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（矯正歯科治療時）		
21	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（ライフステージに応じた歯科診療補助）		
22	国家試験対策	歯科臨床と診療補助（エックス線写真撮影時）		
23	国家試験対策（総合）	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		確認テスト 期末試験	10.0% 90.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
総合学習Ⅳ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		四宮 直子
授 業 の 概 要			
国家試験に出題される分野を系統的に学ぶ。 過去問、出題傾向を知る。 本番を想定した問題を解く。			
授業終了時の到達目標			
歯科衛生士国家試験に合格できる知識を習得する。 過去の国家試験問題を解き、正答率70%以上を維持する。 不適切選択肢が「なぜ間違いなのか」を論理的に解説できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有			
時間外に必要な学修			
授業内容の整理をする。 全国模試・校内試験の対策をする。			
回	テ ー マ	内 容	
1	歯科矯正学	不正咬合 矯正装置	
2	歯科矯正学	矯正装置	
3	歯科矯正学	矯正歯科材料と使用方法 矯正用器具と取り扱い	
4	歯科矯正学	矯正用器具と取り扱い	
5	歯科矯正学	矯正歯科診断（写真、模型、画像検査、機能検査） MFT	
6	歯科矯正学	矯正装置の装着（バンド、マルチブラケット装置）	
7	歯科矯正学	矯正装置の撤去 矯正治療に関する患者指導	
8	まとめ	まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率
国試の麗人Ⅰ（DHS歯科衛生士部） 徹底分析！年度別歯科衛生士国家試験問題 集（医歯薬出版） プリント		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合学習Ⅴ		歯科衛生士学科／3年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		四宮 直子
授 業 の 概 要				
国家試験に出題される分野を系統的に学ぶ。 過去問、出題傾向を知る。 本番を想定した問題を解く。				
授業終了時の到達目標				
歯科衛生士国家試験に合格できる知識を習得する。 過去の国家試験問題を解き、正答率70%以上を維持する。 不適切選択肢が「なぜ間違いなのか」を論理的に解説できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
授業内容の整理をする。 全国模試・校内試験の対策をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	歯科補綴学		・補綴歯科治療の基礎知識 ・有床義歯（可撤性補綴装置） ・支台築造 ・クラウン（固定性補綴装置） ・ブリッジ（固定性補綴装置） ・インプラント治療	
3	保存修復学		・保存修復治療と硬組織疾患 ・歯の硬組織疾患の種類と検査法 ・前準備（防湿法、歯間分離法、歯肉圧排法、隔壁法） ・修復法の種類と特徴 ・窩洞	
4	歯内療法学		・歯髄疾患の種類と病態 ・根尖性歯周組織疾患の種類と病態 ・歯髄検査 ・歯髄保存療法 ・歯髄除去療法 ・根尖性歯周組織疾患の治療 ・根管治療と治療に用いる器具・器材 ・根管充填 ・根未完成歯の処置 ・外科的歯内療法 ・外傷歯の治療・歯内療法における安全対策	
5	歯周療法学		・歯周病の種類と病態 ・歯周病の発現とリスクファクター ・歯周病と全身との関連	
6	口腔外科学		・顎、口腔領域の疾患 ・口腔外科治療 ・麻酔 ・全身管理とモニタリング ・救命救急処置	

回	テ ー マ	内 容		
7	小児歯科学 高齢者歯科学・障害児者歯科学	・小児歯科の概要 ・小児の疾病異常 ・小児患者の評価と対応 ・小児の歯科治療 ・高齢社会 ・加齢変化 ・高齢者の歯科治療 ・通院困難者への対応 ・高齢者の摂食嚥下とリハビリテーション ・障害の概念 ・障害の種類と歯科的特徴 ・障害児者の歯科治療 ・障害児者の摂食嚥下とリハビリテーション		
8	歯科臨床総論	・全身疾患と歯科治療 ・口腔内検査・口腔機能検査 ・画像検査 ・一般臨床検査		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
国試の麗人Ⅰ（DHS歯科衛生士部） 徹底分析！年度別歯科衛生士国家試験問題 集（医歯薬出版） プリント		期末試験	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		四宮 直子
授 業 の 概 要			
就職活動を控え、これから、社会人になるにあたって、必要なスキルを身につける 3KAN教育の後半として、就職活動を通して社会人に必要なスキルを身につける			
授業終了時の到達目標			
1. 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2. 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3. 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
「業界の動向」や「社会の課題」に目を向ける習慣をつける 自分の興味のある分野の最新トレンドや、そこで働く社会人が求めているスキルについて調べる			
回	テ ー マ	内 容	
1	企業訪問/就職試験について/ 企企業が欲しい人材/自己分析	企業が求める人材の理解と自分を理解する ほううれんそう PDCA	
2	模擬面接①	グループに分かれて教室にて模擬面接を実施する	
3	模擬面接②	グループに分かれて教室にて模擬面接を実施する	
4	グループディスカッション・ワーク	NASAゲーム、ノベルティ決めを用いてディスカッションを体験する。 森ゼミ資料のディスカッションを用いて就職研修のディスカッションを行う	
5	就職や社会におけるSNSの活用 ・ SNSを就職活動に役立てる方法と注意点について理解する ・ SNSが扱う個人情報や社会でどう関わっているのかを、法律的な観点から理解する ・ 「著作権」や「肖像権」への意識を高める。 ・ SNSやWeb上で写真や動画を扱う際の注意点を理解する	(前半) 1. SNSとはどのようなものか 2. SNSを利用した就職活動の方法例 3. SNSの利用を誤った場合の失敗例 (後半) ・ 著作権とは？ ・ 肖像権とは？ ・ SNSへ画像や動画を投稿する際の注意点	

回	テ ー マ	内 容		
6	新聞を通して、情報の入手の仕方 や、新聞の読み方を学ぶ	①仕事に必要な基礎能力とは ②基礎能力向上に新聞がなぜ役立つか ③新聞と他メディアの違い ④慣れない新聞の読み方 ⑤1日10分で基礎能力のトレーニングになる新聞の使い方		
7	社会に出た際に必要となる知識を学 び理解する（働くことの基礎知識～ 労働・給与・税金～）	給与計算の基礎知識 ・ 給与に関する法律 ・ 給与支払いの5原則 ・ 給与明細の見方 ・ 残業時間の計算 ・ 法定労働時間と変形労働時間制 ・ 残業時間を計算する ・ 時間外労働の割増率 ・ 税金について		
8	社会人と学生の違いを理解する	社会人になるということ 学生と社会人の違い		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業担当者によるレジュメ		課題・レポート	100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
4. 50単位（203時間）	必須		
授 業 の 概 要			
学内で学んだ知識・技術・倫理（態度）を歯科医療現場で体験し、歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学ぶ。 歯科衛生士としての技術を習得し、あわせて医療従事者にふさわしい人格を養成する。			
授業終了時の到達目標			
①講義、学内実習で学んだ知識に基づいて患者との人間的な関わり合いを深め、患者のニーズに関する理解力や判断力を養う。 ②患者とのコミュニケーションを通じて、歯科医療における患者の心理に対して理解を深める。 ③歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ④指導者の指導のもとに、歯科医療の流れとそれに必要な診療補助技術を習得する。 ⑤指導者の指導のもとに、歯科予防処置ならびに歯科保健指導技術を習得する。 ⑥歯科衛生士としての職業倫理・社会的役割と使命感を養い、医療人としての態度を身につける。			
3 年次 実習目標			
・医療従事者としての自覚を持つ。 ・歯科診療補助に加えて歯科予防処置、歯科保健指導ができる。 ・患者との良好なコミュニケーションがとれる。 ・他職種の仕事内容を理解し、連携を図ることができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	歯科臨床現場での実務経験 4 年以上		
時間外に必要な学修			
実習日誌・レポートをまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する			
回	テ ー マ	内 容	
1	前期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先）	各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける	
2～ 102	歯科医療機関にて臨床実習	各歯科医療機関での、診療内容を理解する。（インプラント、外科治療、小児歯科、矯正歯科、一般歯科） 治療の流れを理解し、治療の準備をする。 ライフステージに応じた歯科保健指導を見学・介助する。 子どもから高齢者までの患者様との、関わり方を見学し理解する。 一日一症例について、治療の手順流れ、わからない点などを調べてレポートをする。	
教科書・教材		評価基準	評価率
		実習・実技評価	100.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態			
臨床実習Ⅳ	歯科衛生士学科／3年	2026／後期	外部実習			
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員			
4. 50単位（203時間）	必須					
授 業 の 概 要						
学内で学んだ知識・技術・倫理（態度）を歯科医療現場で体験し、歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学ぶ。 歯科衛生士としての技術を習得し、あわせて医療従事者にふさわしい人格を養成する。						
授業終了時の到達目標						
①講義、学内実習で学んだ知識に基づいて患者との人間的な関わり合いを深め、患者のニーズに関する理解力や判断力を養う。 ②患者とのコミュニケーションを通じて、歯科医療における患者の心理に対して理解を深める。 ③歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ④指導者の指導のもとに、歯科医療の流れとそれに必要な診療補助技術を習得する。 ⑤指導者の指導のもとに、歯科予防処置ならびに歯科保健指導技術を習得する。 ⑥歯科衛生士としての職業倫理・社会的役割と使命感を養い、医療人としての態度を身につける。						
3 年次 実習目標 ・医療従事者としての自覚を持つ。 ・歯科診療補助に加えて歯科予防処置、歯科保健指導ができる。 ・患者との良好なコミュニケーションがとれる。 ・他職種の仕事内容を理解し、連携を図ることができる。						
実務経験有無	実務経験内容					
有	歯科臨床現場での実務経験 4 年以上					
時間外に必要な学修						
実習日誌・レポートをまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する						
回	テ ー マ	内 容				
1	後期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先）	各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける				
2～ 102	歯科医療機関にて臨床実習	各歯科医療機関ごとのプログラムに沿って臨床実習				
教科書・教材		評価基準	評価率			
		実習・実技評価	100.0%			
			その他			

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨地実習Ⅱ	歯科衛生士学科／3年	2026／前期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（45時間）	必須		
授 業 の 概 要			
望ましいコミュニケーションとは何かを学び、施設における日常の健康管理や口腔管理がどのようにされているかを理解し、歯科衛生士をめざす者として、口腔衛生を通して自立支援のための援助となるよう努めることを目的とする。			
授業終了時の到達目標			
口腔衛生管理・口腔機能管理の必要性を理解し説明できる。 口腔衛生管理・口腔機能管理の取り組みについて知る。 利用者様との適切なコミュニケーションのとり方を理解し実施できる。 多職種連携の必要性、他職種の役割・業務内容を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
事前学習として、車いす介助、高齢者に起こる疾患、口腔の特徴などを理解して実習に臨む。			
回	テ ー マ	内 容	
1	事前オリエンテーション（実習先）		
2～23	老健施設、福祉施設等での実習	一日を通して、高齢者のADLを理解する。 入浴、食事介助などを見学、補助を行う。 施設で行われている、口腔健康管理（口腔衛生管理、口腔機能管理）について見学し、理解を深める。 食前の口腔体操を行う。	
教科書・教材		評価基準	評価率
		実習・実技評価	100.0%
			その他